

「第 35 回 廃棄物資源循環研究発表会」 市民展示、ミニ発表会報告

第 35 回廃棄物資源循環学会研究発表会は、2024 年 9 月 9～11 日にハイブリッドでつくば国際会議場にて開催され、市民団体等 12 団体の活動が、一般公開で紹介され、展示されました。9 月 9 日には、「日本のリペア文化復活に向けて」をテーマにした講演と市民展示団体のミニ発表会を合わせた市民フォーラムが開催され、今回はその中から「リユース・食器ネットワーク（地球・人間フォーラム）」および「ECOMMIT」の活動をご紹介します。

捨てない社会をかなえる、ECOMMITの取り組み

(株) ECOMMIT

上席執行役員 CSO (Chief Sustainability Officer) 兼
ESG 推進室長

さかのあきら
坂野 晶

皆さんは着なくなった衣類をどのように手放していますか？リユースショップやフリマアプリ等を通じて古着として譲渡したり売却したりする機会も多いでしょう。しかし、日本で最も多く選ばれている手段は可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄することです。約 68% の衣類が廃棄され、その量は年間で約 47 万 t。一日で大型トラック約 120 台分の衣類を廃棄しているのです¹⁾。大量生産・大量消費が拡大しつづけるなかで、「廃棄する」選択だけでは環境負荷は高まり続けます。現状を変えるためには、循環型社会（サーキュラーエコノミー）に転換するための取り組みが求められているのです。

そのようななか、私たち ECOMMIT は、「捨てない社会をかなえる」ことを掲げ、循環のインフラを構築することを目指しています。現在、EC サイトやショッピングモールなど、消費のインフラは十分に整っている一方で、ものを手放した後に循環させるための循環のインフラは全くといってよいほど整っていません。

ECOMMIT の事業では、不要になった衣類などを全国から回収し、全国 7 箇所にある自社の循環センターで選別・再流通させています。循環センターの選別では、創業から培われてきたノウハウを受け継ぐプロピッカーと呼ばれる、素材の知識を身につけた目利き専門職が、衣類を 80 種類以上の品目に選別します。さらに、再流通先の顧客やパートナーからファッションのトレンドやモードについて意見を聞きながら、柔軟に対応していく双方向の流通システムにより、高い資源循環率を達成しています。衣類は、リユースが約 9 割、リサイクルが約 1 割という循環率です。ECOMMIT では衣類の廃棄は約 1%、衣類以外（家電や雑貨等）でも廃棄を約 10% におさえる工夫をしています。さらに、自社開発のトレーサビリティシステムにより、リユース・リサイクル率の算出や、CO₂ 削減量のレポートを行なっています。これらの事業を通じて「循環インフラ」になることを目指しているのです。



写真 1 衣類や雑貨などの回収ボックス「PASSTO（パスト）」

また、インフラになるためには、生活者がより身近な場所で「捨てる」のではなく「循環させる」ための選択を行うための仕組みが必要です。生活動線上に資源循環の拠点を増やす ECOMMIT の挑戦の一つが、2023 年 4 月からスタートした PASSTO（パスト）です（写真 1）。

「PASSTO」は、衣類や雑貨などの不要品を回収するボックスを設置することで暮らしに一番身近な資源循環の入り口をつくることができます。すでに全国の郵便局や商業施設、マンションなどにも導入され、地域によっては自治体が主導して公共施設や地域全体に PASSTO の不要品回収ボックスを設置する動きが進んでいます。

このように拠点が拡大している PASSTO ですが、捨てない選択肢がより身近になると、かえって商品を購入する人が増え、大量消費を助長させるということも考えられます。実際に、PASSTO を利用することで生活者の意識や行動はどのように変化しているのでしょうか。

「PASSTO」を設置するイオンモール佐賀大和店の衣類回収ボックス利用ユーザーに調査を行なったところ、衣類回収ボックス利用ユーザーの 73% が「環境に貢献できること」を理由に利用し、衣類回収ボックス利用後の意識変化として 55% が「捨てる以外の選択肢を考えるようになった」と回答しました。PASSTO のサービスを利用する過程で、買い方やものとの付き合い方に意識の変化が生まれ、「ものを無駄に買わない」ことを意識するようになったという行動変容の効果が結果に出ているのです。PASSTO を通じて、生活者の皆さまとともに循環型社会を目指したいと思いますし、ぜひ、捨てるのではなく次の人につなげるための一番身近なアクションとして PASSTO に参加いただけると嬉しいです。

ECOMMIT はこれからも、ものづくり企業、同じ資源循環の領域にいる企業や自治体、そして生活者の皆さまとともに、循環型社会の実現に向けた挑戦を行なっていく予定です。

参考文献

- 1) 環境省 サステナブルファッション
https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/